

奥能登における精神医療のニーズ

【内容】被災からの活動と、これから想定される精神医療ニーズ

金沢大学 精神科/子どものこころの診療科

菊知充

地震発生

本日

1月							2月							3月							4月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
31	1	2	3	4	5	6	28	29	30	31	1	2	3	25	26	27	28	29	1	2	31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	1	2	3	25	26	27	28	29	1	2	24	25	26	27	28	29	30	28	29	30	1	2	3	4
4	5	6	7	8	9	10	3	4	5	6	7	8	9	31	1	2	3	4	5	6	5	6	7	8	9	10	11

精神科医療支援としての活動



DPAT立ち上げ情報交換開始

日本精神神経学会・災害支援委員（東北大学富田先生）によるWeb講習会開催

Web上で被災者に対するメンタルヘルスの知識と初期対応を公開（亀谷：リエゾン）

1月	日	月	火	水	木	金	土
31	1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13	
14	15	16	17	18	19	20	
21	22	23	24	25	26	27	
28	29	30	31	1	2	3	
4	5	6	7	8	9	10	

2024.01.05 お知らせ

災害時資料：精神科領域における災害時の対応資料等

令和6年1月1日に発生した、令和6年能登半島地震におかれましては、被災された皆様には、心からのお見舞いを申し上げます。また、亡くなられた方々とそのご家族におくやみ申し上げます。

精神科といたしましても、精神医療の観点から、全力を尽くし支援を行なって参ります。

金沢大学附属病院神経科精神科で、震災後1ヶ月以内の急性期対応に限局し、最低限知っていただきたい内容をまとめた資料を作成いたしましたので公開いたします。非商用に限り、再配布・改変は自由に行ってください。

災害時資料：精神科領域における災害時の対応資料等

[被災者に対するメンタルヘルスの知識と初期対応（一般の医療従事者向け 金沢大学附属病院神経科精神科作成）](#)

[PDFダウンロード](#) [PDF](#)

この資料を作成するにあたり、下記の資料を参考、引用いたしました。さらなる情報が必要な方は、是非リンク先の資料をご一読ください。

[日本精神神経学会 災害支援活動一覧](#)

[内閣府 ほっと安心手帳](#)

[大阪大学大学院 連合小児発達研究科リンク（主に子ども向けの被災者の資料が多くあります）](#)

[国立精神・神経医療研究センター ストレス・災害時こころの情報支援センター資料](#)

[災害で大切な人をなくされた方を支援するためのウェブサイト](#)

[資料 | ストレス・災害時こころの情報支援センター](#)

医療従事者が病院で遭遇する災害時のメンタルヘルスについての知識と初期対応（急性期に限局して）

令和6年1月5日

金沢大学附属病院 神経科精神科
精神科リエゾンチーム

災害は人命や家屋の喪失、地域のインフラや産業への甚大な被害をもたらす、生活再建や地域復興に長い時間が必要になります。その過程の中で、被災者はさまざまな心理的影響を受けます。今回、我々医療従事者が災害発生後数週間、病院内で被災者に関わる際に知っておくべき知識を抜粋しました。被災者の心のケアを行うのみならず、職員の皆様が短時間で少しでも安心感を持って医療に従事いただくことを目的としています。ご参考になれば幸いです。

災害がもたらす心理的影響

災害がもたらす心理的影響は大きく3つに分けて考えると理解しやすいとされます（図1.1）。一つ目は災害直後の恐怖や悲惨な光景の目撃がもたらす反応（いわゆるトラウマ反応）と呼ばれるもので、恐怖や直後の記憶が突然蘇る（フラッシュバック）、思い出さないように関連する刺激を避けたり、あるいは気が高ぶって些細な刺激に過敏に反応する、などが典型的な反応です。二つ目は、死別や住宅などの喪失がもたらす強い悲しみと喪失感、あるいは罪悪感などの悲嘆反応と呼ばれる反応です。三つ目は、避難所や仮設住宅での生活が象徴する生活上の困難がもたらすストレス反応で、気分が落ち込む、原因不明の体調不良が続くなどの変化が起こることがあります。これも忘れてはならない精神的影響です。

ここで重要なのは、これらの反応の多くは**当たり前に起こる正常な反応**で、**時間の経過の中で**地域の復興が進み、個人の生活再建が進んでいくと、多くの被災者では**自然に回復していく**ということです。この時点では精神的な反応は日によって大きく変動しますが、この変動も徐々に回復していくのが一般的です。診断をつけ介入することはあまり意味がなく、**ひどい興奮や切迫した自傷のおそれがあるなどの特に重症な方のみが同定できれば良い**とされ、医学的にスクリーニングを行うべき時期は災害発生後1ヶ月程とされています³⁾。実際、心的外傷ストレス症(PTSD)の診断には1ヶ月以上の症状持続が必要⁴⁾。急性期では基本的には傾聴や安心感を与えることが主な対応であり、専門的な介入は必ずしも必要ではありません。なお、**災害急性期の不眠も正常反応**であり、**薬物療法は基本的には不要**です（使用するにしてもデゼピコ[®]などの非ベンゾジアゼピン系/非GABA系の睡眠薬のみに留めるべきであると考えます）。一方、災害発生後1ヶ月以上不眠が持続する場合はフォローが必要になります⁵⁾。

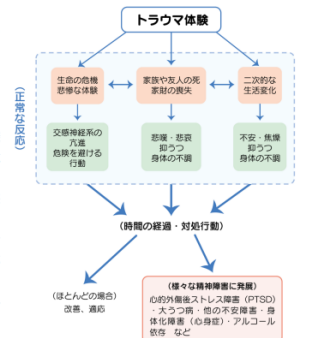
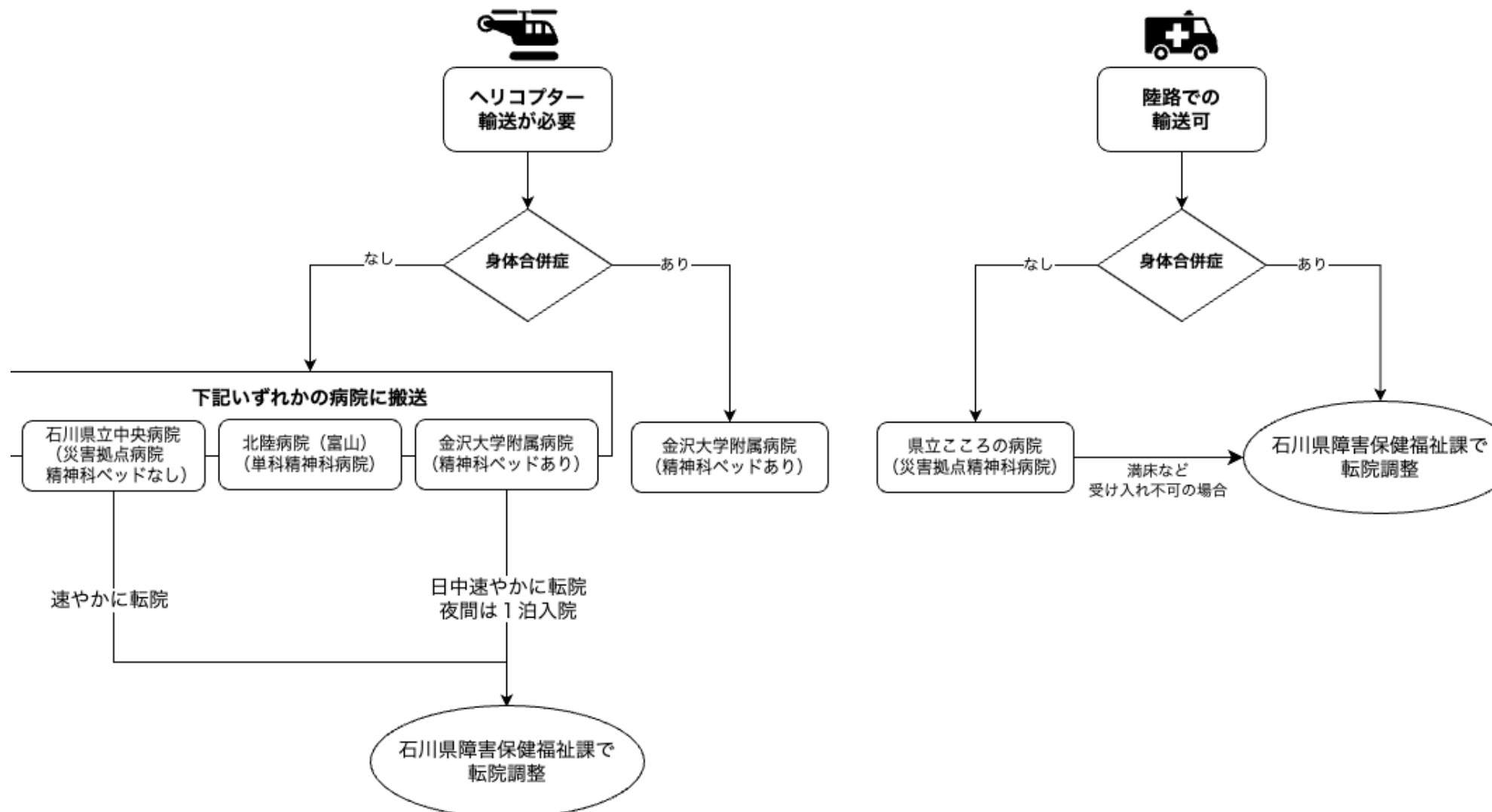


図1 災害がもたらす心理的影響(文献1,2)

1月5日には 精神科患者の入院フローを作成しDPATと共有

能登地区からの転院搬送を要する精神科疾患を疑われる患者のフロー

Ver. 1.0
2024/1/5



DPAT

自然災害や航空機・列車事故、犯罪事件などの集団災害の後、被災地域に入り、精神科医療および精神保健活動の支援を行う専門的なチーム



金沢大学精神科医局からは坪本医局長をはじめ
延べ38日 精神科医を派遣



全国と地元のDPAT混合チーム

■ 全国 D P A T

■ 全国とlocalの D P A T

■ Local DPAT

D P A T 講習会：石川県地場産業振興センター大ホール

1月

日	月	火	水	木	金	土
31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10

2月

日	月	火	水	木	金	土
28	29	30	31	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	1	2
3	4	5	6	7	8	9

3月

日	月	火	水	木	金	土
25	26	27	28	29	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31	1	2	3	4	5	6

4月

日	月	火	水	木	金	土
31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11

菊知が珠洲市総合病院の精神科外来の応援

5月

日	月	火	水	木	金	土
28	29	30	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	1
2	3	4	5	6	7	8

6月

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	31	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	1	2	3	4	5	6

7月

日	月	火	水	木	金	土
30	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10

8月

日	月	火	水	木	金	土
28	29	30	31	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31
1	2	3	4	5	6	7



6月以降は、石川県がどこかに委託して、こころのケアセンターが出来る予定

1 / 2 9 ~ 2 / 2 珠洲市総合病院、公立宇出津総合病院 精神科外来の応援（菊知）

1月

日	月	火	水	木	金	土
31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10

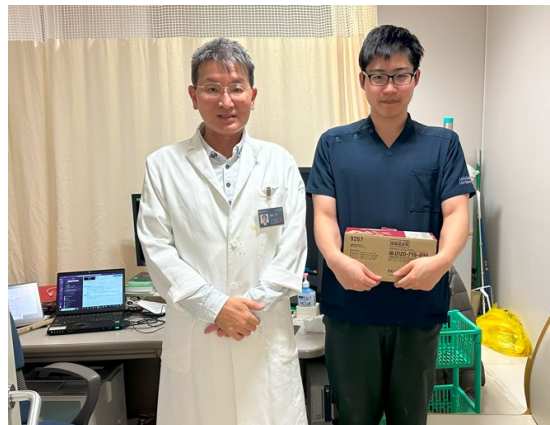


医療スタッフも皆被災者。
入浴も洗濯もできない日々
2～3割が離職予定との話が・・・



外来のベッド（厚遇）

合計90名程度の外来診察
再来患者がほとんど。避難所から来られる方が多い
石川中央の2次避難所から戻って受診される方が2名
（やっぱり珠洲が良い、宇出津が良い・・・と言われていた）



珠洲市総合病院の地域枠の先生

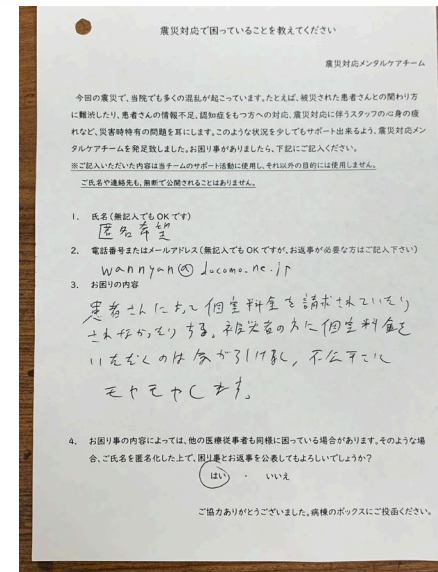


公立宇出津総合病院の地域枠の先生方

1～3月 大学病院内の震災メンタルヘルス対策

佐野、水上（心理）、中村師長

1月							2月							3月							4月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
31	1	2	3	4	5	6	28	29	30	31	1	2	3	25	26	27	28	29	1	2	31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	1	2	3	25	26	27	28	29	1	2	24	25	26	27	28	29	30	28	29	30	1	2	3	4
4	5	6	7	8	9	10	3	4	5	6	7	8	9	31	1	2	3	4	5	6	5	6	7	8	9	10	11



- 各部署に「目安箱」的なボックスを配置し、所定の用紙に困りごとを書いてもらう
- Covid-19のとき類似のことをメールで行ったが、紙の方が多職種に好感触

実際の困りごとと対応 例

佐野、水上（心理）、中村師長

【個別の患者に関すること】

- ・元気がない、悲観的な発言、無理に頑張ろうとしている など
- 医師が直接診察 or 対応についてアドバイス

【職員に関すること】

- ・自分自身が辛い、眠れない、集中力が低下している
 - ・同僚の言葉に傷ついた
 - ・実家が被災したが、勤務について配慮が得られない
- このタイプの困りごとが圧倒的多数**であった。事例に応じて
医師の診察、心理士の面談、所属部署上司と相談、など行った

4月8日 金沢市医師会 医療安全講習会

菊知

能登半島地震における被災者などの精神的ケア



菊知 充

金沢大学附属病院
精神科診療科長
子どものこころの診療科長
子どものこころの発達研究センター

THE JOHNS HOPKINS
GUIDE TO PSYCHOLOGICAL FIRST AID

サイコロジカル ファーストエイド

ジョンズホプキンス・ガイド

ジョージ・S・エヴァリー ジェフリー・M・ラティング(著)
George S. Everly, Jr., Jeffrey M. Lating
譯者 神庭重信(監) 中尾智博 久我弘典 浅田仁子(監) 日本若手精神科医の会(監)

「傍らにいる」ということ

ラポールは「傍らにいる」ことから始まります。ラポールは、そのときの介入者がどう受け止められているかに基づけるもので、ときには、苦しんでいるその相手が最も必要としていることでもあります。

冷静さを保つ—平静

落ち着き払って自信を顕示できること——これは特に、苦しんでいる人が自分にはこの状況をどうすることも感じていたり、その状況を恐れていたりする場合に重要な側面になります。このスキルを過小評価しては、困難な状況の真只中で冷静さと自信を示すことで、相手の心を慰める力強いメッセージを送ることができ

共感とラポール

共感性のある危機介入者は、危機に陥っている人が経験している意味や感情の範囲に波長を合わせ、そのことのように感じます。共感、他者との取り組みで肯定的な結果を出していくときの、最も重要な中核的要素です。同情ではありません。



THE JOHNS HOPKINS
GUIDE TO PSYCHOLOGICAL FIRST AID

サイコロジカル ファーストエイド

コロラド州のサウスプラット川が氾濫。警告がほとんど出ない中、少なくとも十数軒がほぼ全壊となりました。洪水を生き延びた一人の女性との最初の接触です。

良い例


マット(危機介入者)：こんにちは。
【女性は黙ったままである(5秒間)】
マット：私は、地元の災害救助隊のマットです。
【女性はやはり黙ったままである(7秒間)】
マット：ちょっと確認なんですが……私の話していることは聞こえていますか？
【彼は彼女を見ながら返事を待った。彼女は、庭に散らばった瓦礫と倒れた巨木を、ただまっすぐ見つづけている】
女性：これは私のものでした。
マット：これはあなたの家にはたのですか？
【彼女は依然としてまっすぐ前を見つづけている】
女性：ええ。
マット：あなたとここに立っていてもいいですか？
女性：ええ。
【10秒間沈黙が続く】
マット：何か必要なものはありますか？
女性：何かって？ たとえば？
マット：たとえば、飲み物や食べ物、あるいは毛布とか……
女性：水を少し使いたいのですが。
マット：川の隅っこを離れてもいいですか？ 車に水を積んであるので。
女性：構いません。
マット：分かりました。水を取って、すぐ戻ってきます。
【約90秒後、マットが戻る。彼が近づいていくと、彼女は振り向き、彼を認める】
マット：さあ、水です。他に何か必要なことはありますか？
女性：ありません。
マット：あなたのことをおんこさんだいいですか？
【彼女は彼の方を向き、腕を伸ばして彼と握手しようとする】
女性：クシアです。
【二人は握手をする。彼はしっかりと握手をしたが、彼女の握手は弱く、手は汗ばんでいる】



悪い例

マット：こんにちは。
【女性は黙ったままである(5秒間)】
マット：私は、地元の災害救助隊のマットです。
【女性はやはり黙ったままである(7秒間)】
マット：これはあなたの家ですか？
女性：私の家でした！
マット：それはお気の毒です。いやあ、どのようなお気持ちですか？
女性：気持ち？ 私の人生は終わって感じですよ。
マット：あなたの人生はまだ終わっていません。これは挫折ではあります。乗り越えられます。お気持ち、わかります。
女性：……何もかもなくなっちゃったのに？
マット：おもちだたものをいろいろ失うのは悲しいことかもしれませんが、代わりがあります。少なくともあなたは体に怪我をしていません。そうでしょ？ 精神的な苦しみの方が強いようですね。それはどんな感じですか？
女性：最悪ですよ！
マット：お気の毒です。ですが、もっと悪かった可能性もあります。
女性：もっと悪かった、ですって？ どんなふうにか？
マット：えーと、木が倒れたとき、幸運にもあなたは家にいませんでした。それに、住宅保険、入ってますよね？

約120名の医師が聴講



子どものこころ発達研究センター としての活動

1/30、2/6 特別支援学校 珠洲分校 および 輪島分校 訪問 (菊知)



どちらの校舎も倒壊は免れたものの
建物のつなぎ目が大きく破損、エレベーターは使えなくなっていた

他：給食サービスが使えない、送迎バスが動かせない、放課後等デーサービスが開所できない等 困っていることを子ども家庭庁は本庁に報告



子ども家庭庁の調査員 (杉本)

2月29日

輪島市にて視察、発達障がいのある子どものニーズのお伺い

中京大学 辻井正次、金沢大学人間社会研究域 上宮愛子、
子どものこころの発達支援センター 田中早苗

内容：輪島市役所職員、相談支援員さんらのご対応により、

- ①輪島高校（当時輪島市内の6つの小中学校児童生徒が通っていた）
- ②輪島ていんずらボ（精神科クリニック&子どもの居場所）
- ③社会福祉法人佛子園 輪島KABULET（放課後等デイ再開2日目）
- ④海の星幼稚園（再開ひと月）
- ⑤石川県発達支援センターにて福祉サービス対象となっているお子さんたちの状況の聞き取りを行った。



- 状況：**
- ・非常に大まかに輪島市内の子どもの1/3は市内に留まり、残りは市外に避難、一定数は戻る予定だが多くは見通し不明。6人の校長先生。小学校はクラスに5名の教師。
 - ・小規模校の通常学級の子どもたちは、大人数での活動を楽しめている一方で、特別支援学級の子どもたちは、1/6のみ通学。できる人は早々と二次避難。元々あった教員の力不足の問題継続
 - ・断水のままの地域が多く、支援者も被災者の中、職を継続するかの選択も迫られている
 - ・断片的な情報をそれぞれバラバラに持っており、福祉サービス対象の子どもたちの全容を把握できていない人はおらず、その状況は4月現在もあまり変わっていない様子。保護者同士のつながりも希薄。

ニーズ把握も含め、発達障がいのある子どもの保護者対象の心のケアに関するミニ講演会と保護者交流会&子どもの遊びの会を金沢市内で開催予定

金沢大学子どものこころの発達研究センター

能登っ子あつまれ 2024

ミニ講演会 & 遊びの会 + 交流会 参加者募集

ミニ講演会 & 交流会

①震災後に気をつけること
今後のお子さんたちやお父さんお母さんのこころのケアについて、福島での経験を踏まえてお話します

②ペアレント・プログラム入門
保護者が子どもの特性を理解し、かかわり方を工夫することで、子どもの発達にプラスの効果をもたらすことを目的とした、「子育ての応援プログラム」です


(別室で同時実施)
お子様 遊びの会

友達を作りたい!

能登の友達と遊びたい!

講師：辻井 正次 中京大学 現代社会学部現代社会学科 教授
遊びの会スタッフ：金沢大学の教員、学生

☆日時：2024年 4月28日(日) 13時~15時半
☆対象：就学前~学齢期のお子さまとその保護者
10~20組程度
☆場所：金沢市近江町交流プラザ研修室
(裏面に案内図があります)
☆参加費：無料
☆右のQRコードよりお申し込みをお願いします→
お問い合わせ先：金沢大学子どものこころの発達研究センター
E-mail: childdev@med.kanazawa-u.ac.jp



発達特性のある子どもとその保護者が対象。
トラウマケアやこころのケアのセミナーと
遊びの会のセットのイベントを、4月28日
(日)に金沢で、8月に輪島で開催予定

3月1日 石川県教育委員会との会議 (2時間程度)

菊知 (医学)、村山 (人文)

- 1、知事室への訪問と陳情 (知事室 R 6年3月1日)
- 2、石川県教育委員会との合同検討会 (県庁 R 6年3月1日)

- ①日本スクールカウンセリング推進協議会 理事(前理事長)、石隈 利紀
- ②中京大学 現代社会学部 NPO法人アスペ・エルデの会のCEO・統括ディレクター 辻井正次教授
- ③金沢大学 医学類 菊知充教授
- ④金沢大学 人文学類 村山恭朗准教授

- ①石川県教育委員会事務事務局 教育次長 (高校・特別支援教育担当兼教員確保・指導力向上推進室長)
- ②石川県教育委員会事務事務局 学校指導課 教員確保・指導力向上推進室 室次長
- ③石川県教育委員会事務事務局 学校指導課 課参事 東原 修身
- ④石川県教育委員会事務事務局 学校指導課 生徒指導グループリーダー 課長補佐
- ⑤石川県教育委員会事務事務局 学校指導課 生徒指導グループリーダー 課長補佐
- ⑥石川県教育委員会事務事務局 学校指導課 生徒指導グループ 指導主事
- ⑦石川県教育委員会事務局 学校指導課・高等学校教育担当 課長補佐
- ⑧石川県教員総合研修センター 所長
- ⑨石川県教員総合研修センター リーダー養成研修課マネジメントグループ 指導主事
- ⑩石川県教員総合研修センター 教育相談課 指導主事
- ⑪石川県教員総合研修センター 教育相談課 課長
- ⑫石川県教員総合研修センター 次長

3月26日 石川県の全小中学校長への講習会（3時間程度）

産業展示館：辻井正次先生（中京大学）、梶屋二郎先生（東京医科大学）、菊知（金大医学）、村山（金大人文）






東日本大震災の経験から、全県下における学童の長期的な心理評価の重要性を説明

4月～石川県の小中学校全教員へ オンデマンド講義開始

菊知

被災者の心理状態の変遷



- 災害直後：茫然自失、感情が凍る。
- 急性期：連帯感で結ばれ、自己犠牲的な行動がみられる。
- **中長期**：孤立感が増し、疲労感や無力感にさいなまれる





学長挨拶

3月20日 市民公開講演会開催

石川県立図書館 辻井正次 内匠透 熊谷誠慈



市民公開イベント 金沢大学子どものこころの発達研究センター

3月20日(水・祝) 9:10~11:55

石川県立図書館 だんだん広場

事前申し込み不要

9:10-10:05

「災害と子どものこころのケア」



子どもの心を癒す羅針盤～震災ケアの専門家

辻井 正次

中京大学現代社会学部教授・学部長

10:05-11:00

「仏教×こころ×テクノロジー：子どもたちが楽しく 安らかに暮らせる未来社会を目指して」



熊谷 誠慈 (浄土真宗 住職)

京都大学人と社会の未来研究院・教授

内閣府 ムーンショット目標9 プログラムディレクター

「仏教のこころ理論」について概説するとともに、子どもたちが希望をもち輝ける、明るく未来の実現に向けた「こころのテクノロジー」の研究開発の取り組みを紹介

11:00-11:55

「マウスのこころ? : 睡眠・リズム・気分」



内匠 透

神戸大学 大学院医学研究科 教授

未来を守る知の砦：自閉スペクトラム症についてを基礎科学する心強い味方

これから想定されるメンタルケアニーズ



能登半島地震で心理的ストレスが蓄積する要因

能登半島地震では、最大3.4万人の避難者のうち、3カ月後のR5年4月1日時点で、23.5%（8千人）以上が避難生活を送っている。そして被害の大きかった珠洲市では4月20日現在でも、70%以上のエリアで断水が続いている。半島という地理的条件のため、もともと脆弱であった交通網がダメージを受け、復旧作業を遅らせている。

能登半島のこれまでの精神科医療

能登半島内の地域で特に被害が大きかったのは能登北部（奥能登）は人口約5.5万人で、特に高齢化が特にすすんでいる地域である。奥能登のエリアには、長年にわたり精神科の入院施設はなく、精神科で入院の必要な患者については、ほかの地域（能登中部地域、あるいは能登南部地域）に移動して加療されてきた。奥能登において精神科の外来機能をそなえた医療機関はわずか**5か所**で、**3つの総合病院**（輪島、珠洲、宇出津）と、**2つのクリニック**（輪島、穴水）が**約2000人の精神科患者**をカバーしてきた。

今後、奥能登における被災者のこころのケアを維持しつづけること、そして過疎化が進む地域における精神科医療のありかたが問われている。

例：医師が薄く散らばるか？ 患者が一か所に通うか？

能登半島地震における被災者などの精神的ケア

東日本大震災から学ぶこと

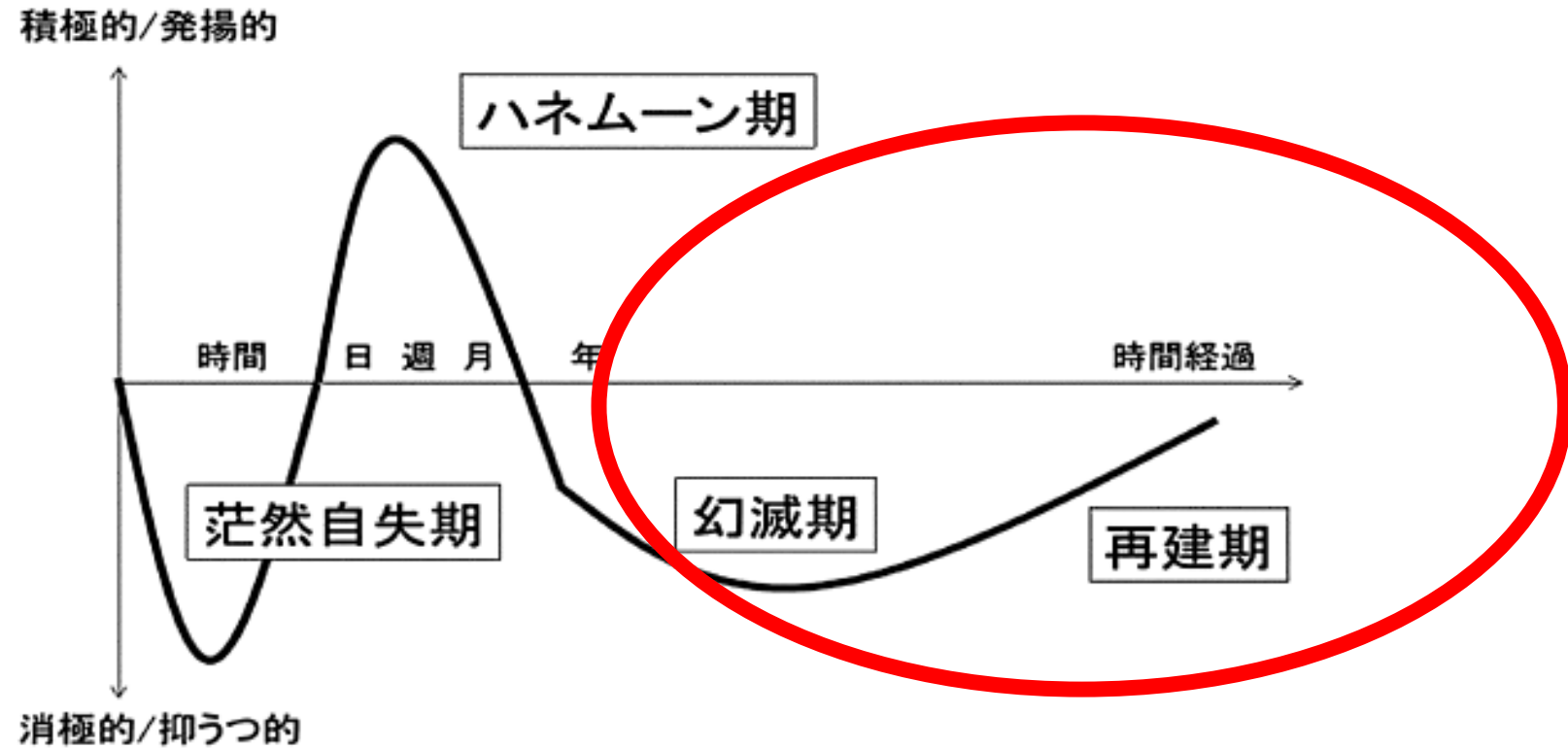
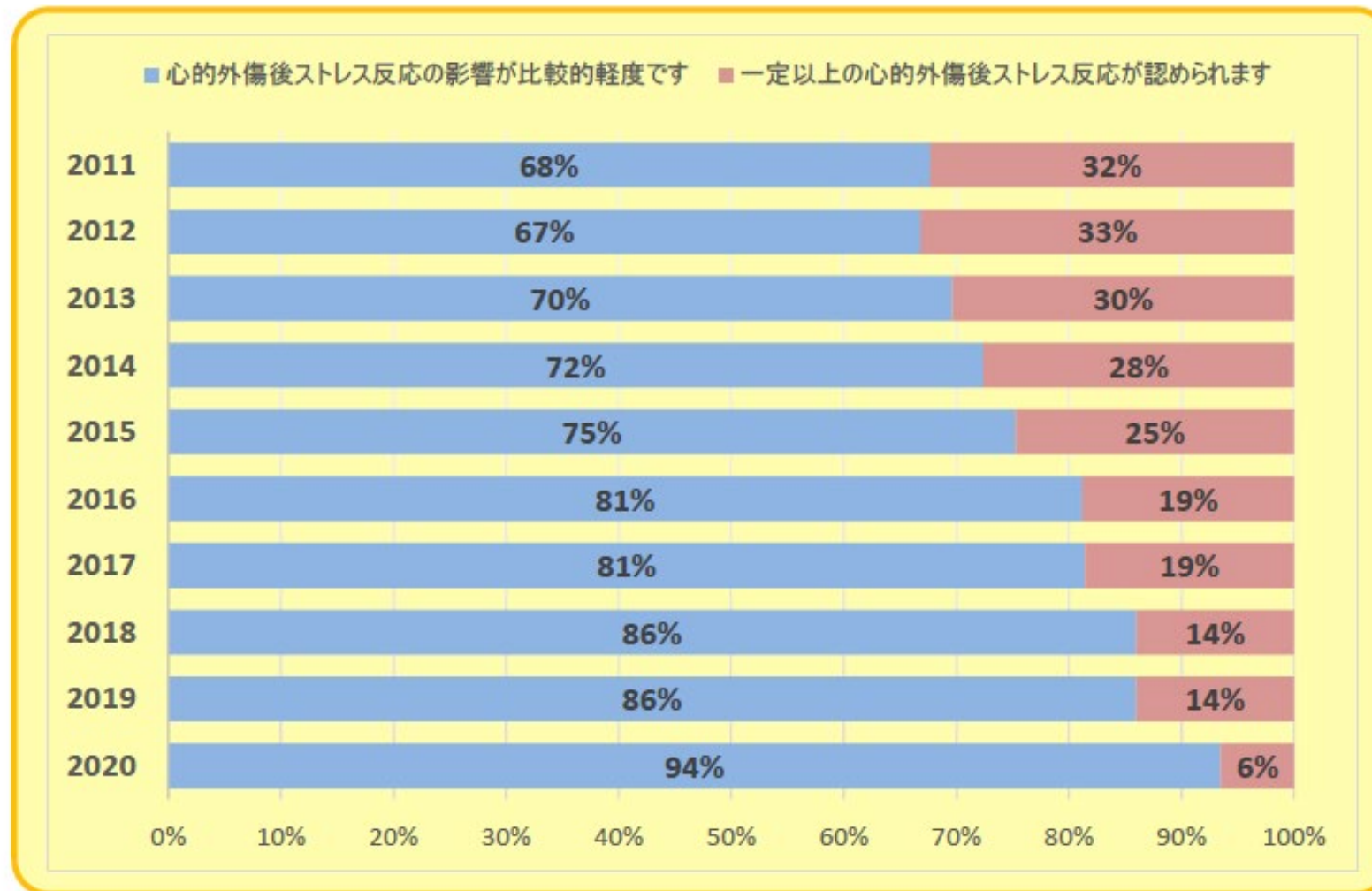


図1. 被災者の心理の時間的経過 (外傷ストレス関連障害に関する研究会 金吉晴
「心的トラウマの理解とケア」(2006)³⁾より改変)

七ヶ浜町における被災者の健康状態の推移に関する研究



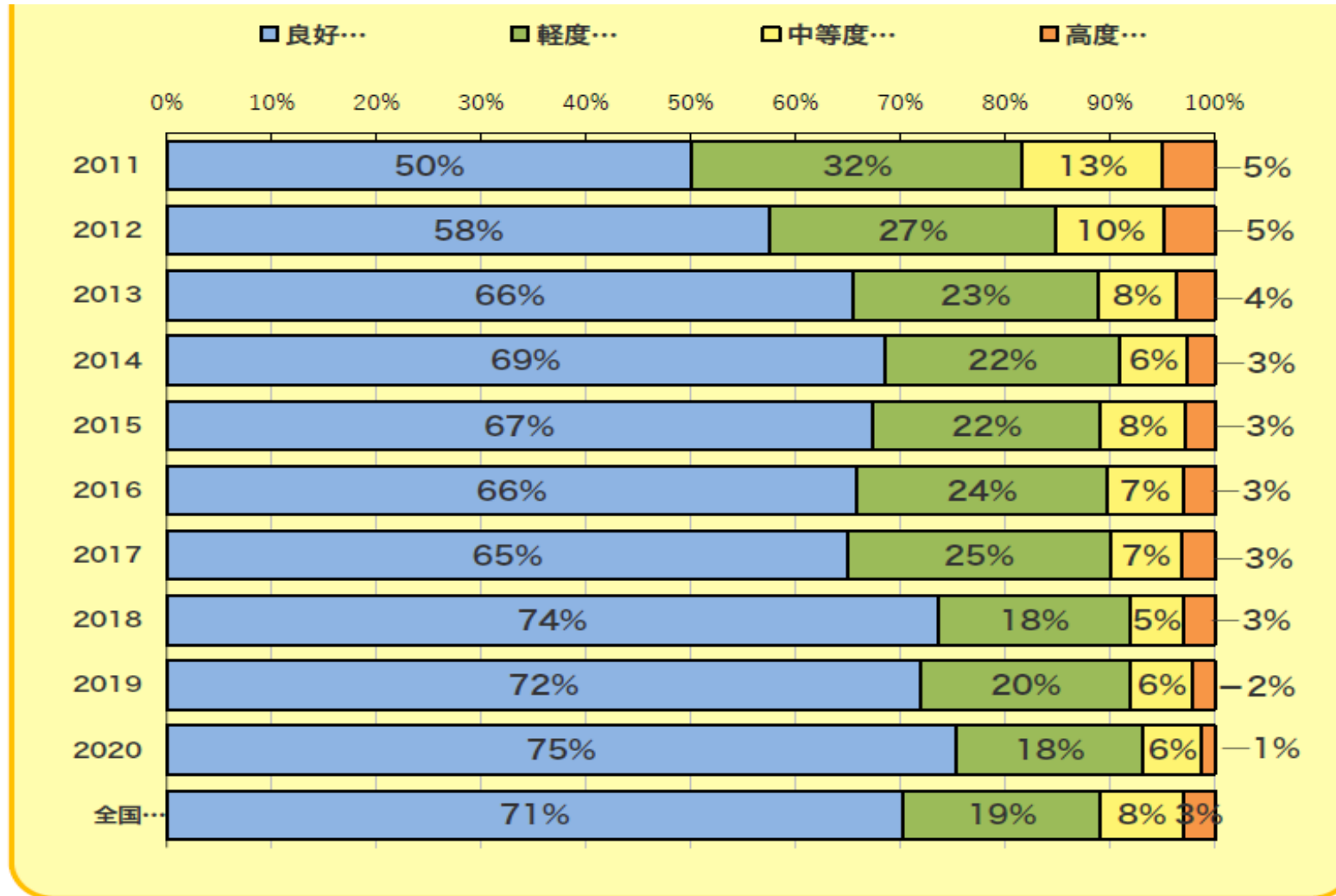
大規模半壊以上の家屋被災にあった被災住民における心的外傷後ストレス反応を示す人の割合の経年変化



出来事インパクト尺度改訂版に基づく。N=1,251

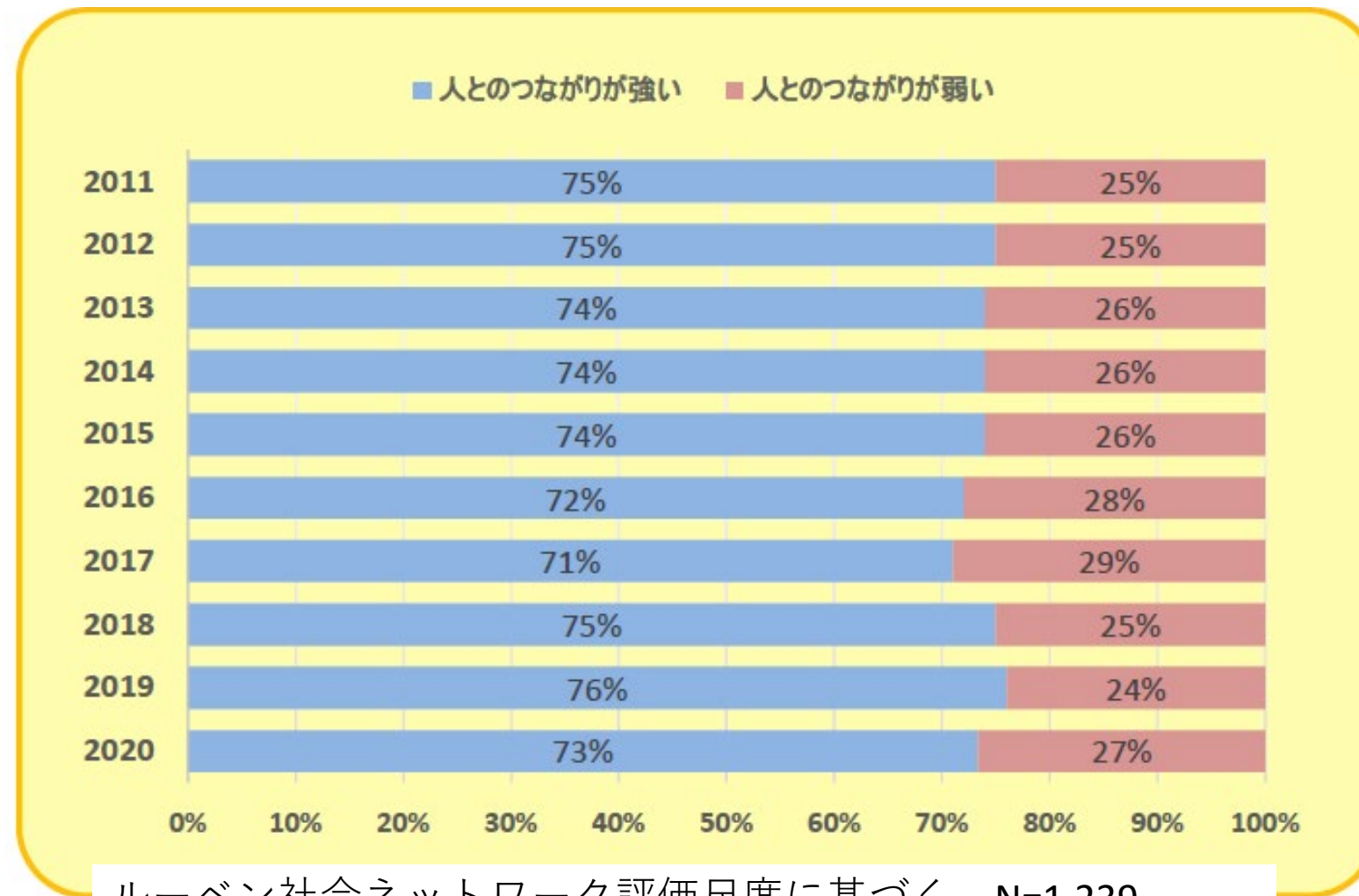
厚生労働行政推進調査事業費補助金報告書

大規模半壊以上の家屋被災にあった被災住民における心理的苦痛を示す人の割合の経年変化



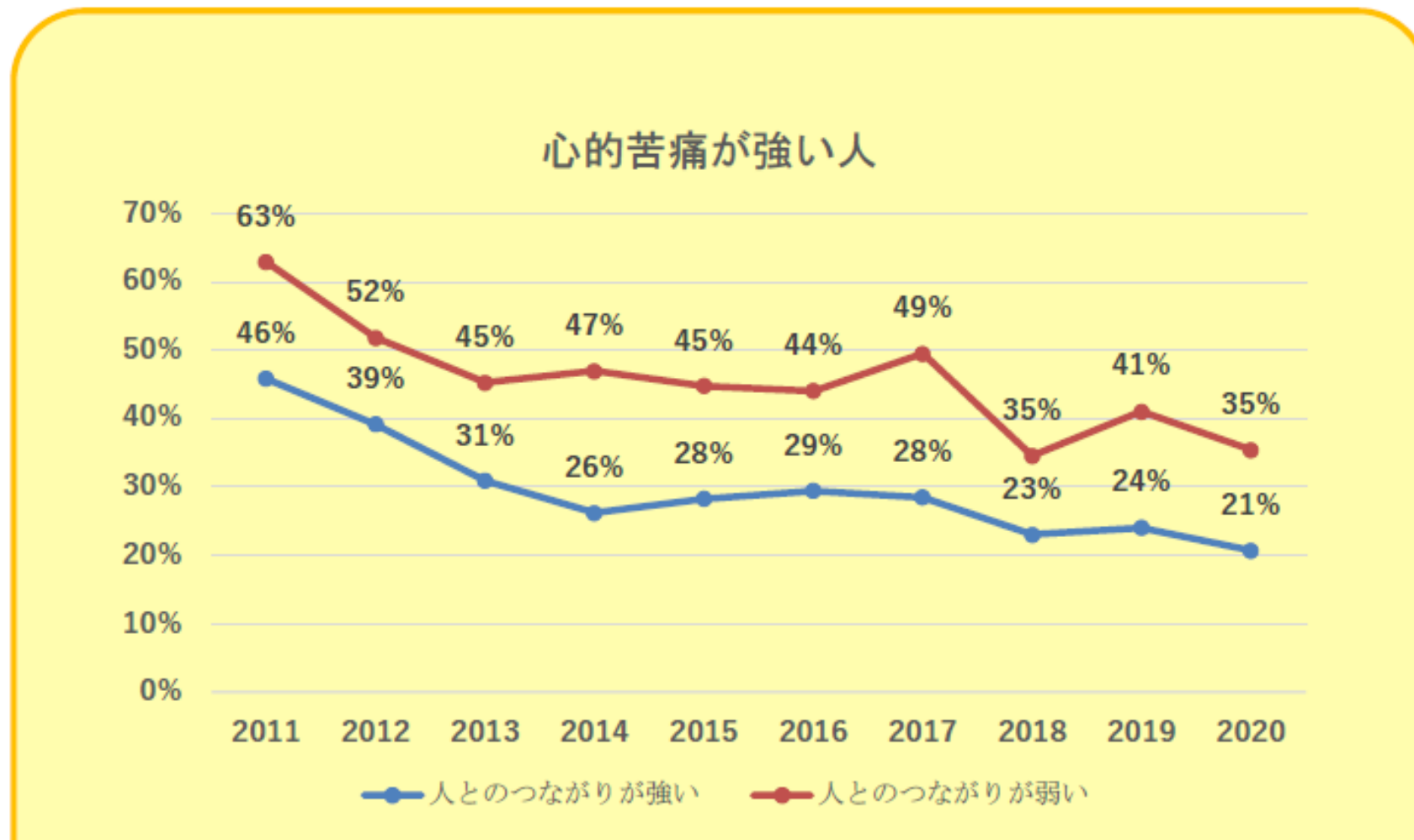
ケスラー心理的苦痛評価尺度 6 項目版に基づく。N=1,251

大規模半壊以上の家屋被災にあった被災住民における 人とのつながりが強い人と弱い人の割合の経年変化



ルーベン社会ネットワーク評価尺度に基づく。N=1,239

大規模半壊以上の家屋被災にあった被災住民で軽度以上の心理的苦痛を示す人のうち、人とのつながりが強い人と弱い人の割合の経年変化



軽度以上の心理的苦痛はケスラー心理的苦痛評価尺度6項目版で5点以上、人とのつながりの強弱はルーベン社会ネットワーク評価尺度で12点以上/未満に基づく

長期化する環境変化は子どもの発達
に影響を与えるか？

被災の翌年から、子ども達に変化が。。。。

被災県での「いじめ」の増加が著しい

2012年度文科省調査



珠洲市市長、浜田病院長とこれからの支援について協議

2024年4月17日 泉谷市長の来訪に合わせて 1時間程度

